医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	胆道閉鎖症の病態解明～上皮間葉転換(EMT)仮説の検証～
研究責任者	小児外科部長　中原さおり
研究機関名	日本赤十字社医療センター　および　シンシナティ小児病院(米国)
研究目的と意義	胆道閉鎖症とは、1万人に1人の発生率で、新生児期から乳児早期に不可逆的に胆管が閉塞してしまう胆汁うっ滞性疾患です。肝内及び肝外の胆管に炎症性変化が起こり、非常に強い肝線維化をきたすことが知られていますが、その病因、病態は不明です。これまで、ウイルス感染や胎児期の胆管形成異常、遺伝子異常や免疫反応など、様々な因子が検討されてきましたが、原因が解っていないのが現状です。救命には乳児早期に手術が必要であり、手術を行っても自己肝生存率は30%と予後が悪く、本邦の小児肝移植の最大の原因となっています。 近年、共同研究施設であるアメリカのシンシナティ小児病院小児栄養消化器科で、オムツなどのポリウレタン製品を合成する際に使用する化学物質が、マウスに胆道閉鎖症を起こすことを発見しました。そのマウスの総胆管部分(胆道閉鎖症の病態の首座となる部分)に、上皮間葉転換(EMT)という所見を認めました。これは、上皮細胞と呼ばれる細胞が、間葉系細胞と呼ばれる細胞に、顔つきが変化している様子です。 本研究は、このEMTが胆道閉鎖症患者様の総胆管にも起こっているかどうか評価し、胆道閉鎖症の病態解明につなげることを目的としています。
研究方法	日本赤十字社医療センターで20011年～2015年の間に手術され、同センター病理部に保管されている胆道閉鎖症患者様7例の総胆管標本を、研究に使用させて頂きます。標本を共同研究施設であるアメリカのシンシナティ小児病院栄養消化器肝臓科に、送付させて頂きます。EMTを評価できる特殊な免疫染色を行います。染色した標本を、日本赤十字社医療センター病理部、小児外科とシンシナティ小児病院栄養消化器肝臓科で所見を検証し、EMTが起こっているか否かを評価させて頂きます。すでに、手術により採取させて頂いた標本を用いているので、御本人様に負担がかかる処置を行うことはございません。 また、この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱います。研究に使用する試料等は、個人情報保護のために、研究対象者の患者ID、氏名、住所等を研究用IDに置き換え、どの研究対象者の試料・情報であるかが直ちに判別できないように匿名化を行います。本研究は、共同研究施設であるシンシナティ小児病院栄養消化器肝臓科に、試料・情報などの授受を行いますが、匿名化されているので特定個人を識別できない状態となっています。また、本研究の実施にあたり、不必要な処置を加えることは決してありません。なお、研究の結果は匿名化して学会発表や論文の形で発表させていただくことをご承諾頂けますようお願い申し上げます。 以上の事柄に対して、ご同意頂けない場合にはご協力頂く必要はありませんので、その旨下記までお申し出ください。 ご協力頂けない場合も不利益を被ることは一切ありません。 この研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。
問い合わせ先	日本赤十字社医療センター　　小児外科 〒150-8935　東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：中原さおり TEL：03-3400-1311　　FAX：03-3409-1604